

Injury Alert (傷害速報) 類似事例

電子体温計による咽頭外傷 (No.34 歯ブラシによる口腔内外傷の類似事例 12) ㊦

事例	基本情報	年齢：1 歳 1 か月 性別：男児 体重：9.6 kg 身長：71 cm
	家族構成	父、母、姉 (3 歳)、姉 (2 歳)、本児
	発達・既往歴	つかまり立ち可、つたい歩き可、独歩不可 生後 11 か月に RSV 感染症で入院歴あり
臨床診断名		咽頭外傷、右口蓋扁桃周囲膿瘍、敗血症
医 療 費		入院 1,117,380 円 外来 2,320 円
原因 対 象	対象名称	電子体温計
	入手経路 使用状況	電子体温計は、本児の手の届かないリビングの 3 段カートの最上段に、普段は保管していた。事故当日は、母が体調不良のため、寝室の枕元でカゴに入れて管理していた。
発 生 状 況	発生場所	自宅の寝室
	周囲の人 周囲の環境	母、姉 2 人、本児が寝室で一緒に過ごしていた。
	発生年月日	2024 年 10 月 X 日 (木) 午後 7 時 30 分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	本児は、姉 2 人と携帯電話で動画を見て遊んでいた。その際、本児が電子体温計のケースを口に入れていているところを、母が目撃していた (電子体温計本体がどこにあるかは認識していなかった)。母が 2 歳の姉の対応をしていたところ、本児が母の背中 でつかまり立ちをしようとして、急に泣きだした。振り返ると本児が腹臥位で倒れており、母が本児の体を起こすと喉に電子体温計が刺さっていたため、とっさに引き抜いた。電子体温計には血液が付着していたが、破損はなかった。すぐに母が救急車を要請した。

医療機関受診時以降の治療経過 転帰	医療機関 A に救急搬送され、咽頭外傷の部位は止血していたため CT(computed tomography)検査は行わず経過観察する方針となった。帰宅後に、不機嫌が出現した。X+1 日、保育園に登園したが 38℃の発熱があり帰宅し、夜にかけて活気不良が見られるようになった。X+2 日に活気不良が続いたため、医療機関 B を受診した。血液検査で白血球 27,000 /μL、CRP 19 mg/dL と高値、迅速検査(アデノウイルス、インフルエンザウイルス、SARS-CoV-2、A 群溶連菌)は陰性であり、咽頭外傷後の感染と敗血症の疑いで医療機関 C を紹介受診した。受診時は全身状態不良であり、バイタルサインは、呼吸数 30 回/分、SpO₂ 100 %、心拍数 178 回/分、収縮期血圧 86 mmHg、意識レベル GCS (Glasgow Coma Scale) 6 点 (E1V4M1)、体温 39.8 ℃だった。Phoenix Sepsis Score は GCS 6 点 (<10) と PT-INR 1.58 (>1.3) と合計 2 点であり、敗血症に伴う代償性ショックを想定し、細胞外液の輸液と抗菌薬治療を開始した。病歴から深頸部膿瘍が疑われたため頸部造影 CT 検査を施行し、右口蓋扁桃周囲膿瘍と診断した。耳鼻咽喉科医による喉頭内視鏡検査の所見も併せて、気道緊急や縦隔膿瘍への進展が危惧されたため、右口蓋扁桃摘出術を施行し、緊急入院とした。術中の膿の培養検査からは <i>Streptococcus pyogenes</i> が検出され、血液培養検査は陰性であった。抗菌薬治療は静注 10 日間、内服 4 日間とした。術後経過良好であり、X+13 日目に退院した。術後約 1 か月で外来経過観察を終了とした。
キーワード	電子体温計、咽頭外傷、口蓋扁桃周囲膿瘍



図1 実際のケースと電子体温計：電子体温計の破損は認めなかった。

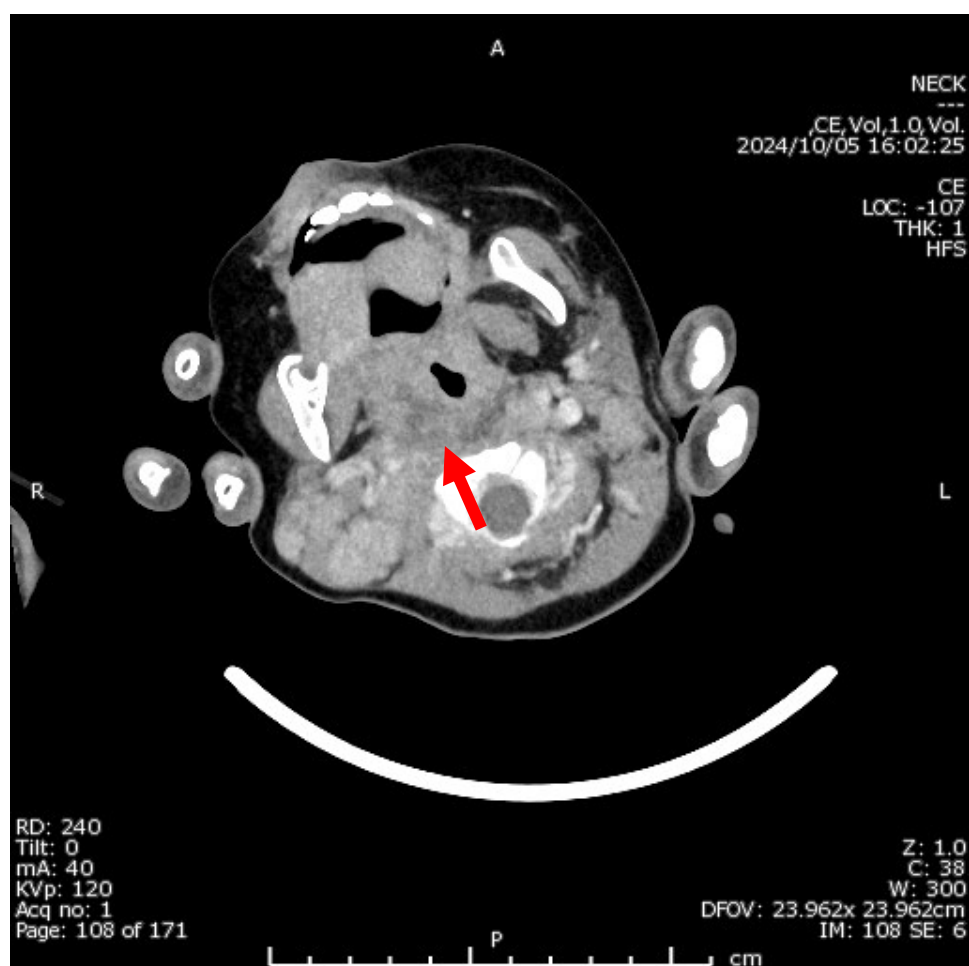


図2 頸部造影 CT 検査：右扁桃周囲に膿瘍形成を認めた（赤矢印）。電子体温計の遺残は認めなかった。

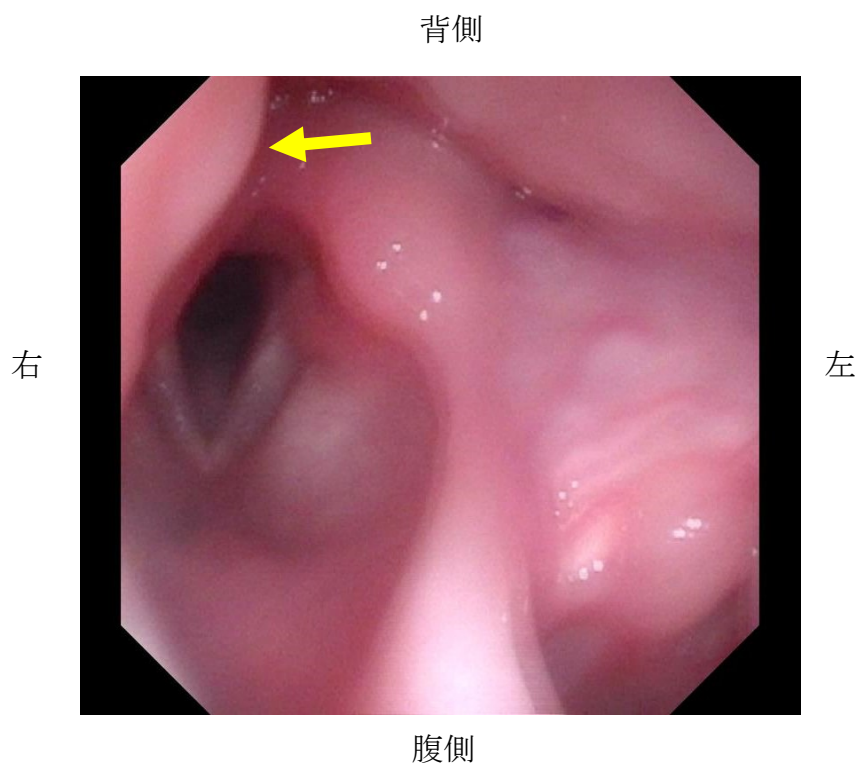


図3 術前の咽頭内視鏡検査 (X+2 日) : 右扁桃の突出を認めた (黄矢印)。

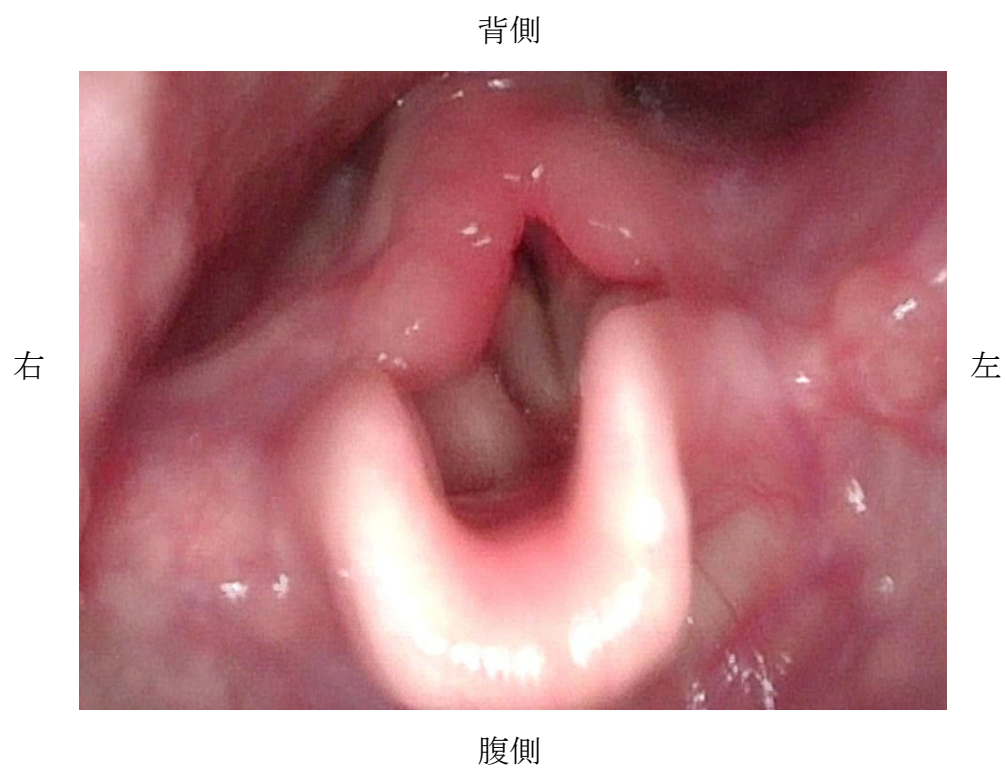


図4 術後の咽頭内視鏡検査 (X+3 日) : 右扁桃は摘出され、突出は改善した。